

教師試験検定に向けて学びを進められる方へ（参考書等のご紹介）

※試験内容・解答のポイントに関するお問い合わせには一切応じられません。

※「真宗学」「仏教学」の論述問題および解答のポイントは、試験後に不合格者へ配布しているものです。

※教師試験検定の過去問題は『教師試験検定問題集』（東本願寺出版）に収載しています。

※参考書として挙げたテキストのうち、出版元の記載のないものはすべて東本願寺出版発行です。

なお、東本願寺出版の書籍のご注文は、東本願寺出版HP（<http://books.higashihonganji.or.jp/>）より承ります。

《真宗学》

●学習のポイント

『浄土の真宗—真宗概要—』を熟読するとともに、同書に引用される聖教については『真宗聖典 第二版』所収の本文に丁寧にあたって学習を進め、十分な準備のうえで試験に臨んでください。また、『浄土の真宗—真宗概要—』巻末の索引を利用して重要な言葉の基本的な意味を確認し、それぞれの箇所の記事内容に目を通して理解を深めるよう心がけることが求められます。参考までに前回の試験問題（論述問題のみ）と解答のポイントをご紹介します。

【2024年春期教師試験検定の論述問題および解答のポイント】

1 真宗聖典 557頁 11行目「不得外現 賢善精進之相」（散善義）というは」から 558頁 2行目「しるべしとなり。」までの文章について、①この言葉が記される宗祖の著作について知るところを簡潔に述べ、②当該の文章について言葉を補足したうえでその概要を現代語訳しなさい。

解答のポイント

教師検定を受けるにあたって必要とされるのは、日頃から三部経・七祖の著作、宗祖の著作の文章や言葉に触れることをふまえてテキスト『浄土の真宗』を読むということである。三部経に説示される教言を七祖がどう受け止めたのか、さらに宗祖がそれをどのように受け止め確認したのかという意識を大切にして聖教の言葉に自らが向き合いながら日頃の学びを進めることが何より大切であり、それに平素取り組んでいるならば、容易に論述が可能であるはずである。

2 同箇所の文をふまえて、宗祖は自らをどう受け止め、また他者を「御同朋・御同行」と受け止めていたのか、自らが領解することをふまえて詳しく述べなさい。

解答のポイント

設問の文章は、善導大師の『観経疏』「散善義」の三心積の至誠心積をふまえた宗祖の言葉であり、「自己とは何か」という問いかけを三経や七祖の言葉から自らに問うことをふまえて宗祖が記された言葉である。受験に先立ってこの文章に触れていることは当然のことであることは言うまでもない。それをふまえて教師資格を取得しようとする自らが、自己と他者とを日頃からどう考えているのか、また教師として生きていく自らがこれからどのようなことを大切にしようとするのか、そのことを平素から主体的に教えに自ら問うて考えているならば、論述は容易であるはずである。

●参考書：『真宗聖典 第二版』『浄土の真宗—真宗概要—』

《仏教学》

●学習のポイント

『改訂 大乘の仏道—仏教概要—』を熟読し、内容を理解した上で試験に臨んでください。学習上、特に重要な点は、①釈尊の生涯と教え、②大乘仏教について、③中国仏教の独自性、を正しく学ぶことです。これらの要点は『改訂 大乘の仏道—仏教概要—』の目次の項目に現れていますので、これを念頭においてください。また重要な仏教用語は、それが人間に何を教えようとしているかを考えることも必須です。なお、参考までに前回の試験問題（論述問題のみ）と解答のポイントをご紹介します。

【2024年春期教師試験検定の論述問題および解答のポイント】

- 1 釈尊の根本教説である「四聖諦」について、①内容を説明する。②私たちに何を教えようとしているのか、各自の考えを述べる。（①②と分けて書くこと）

解答のポイント

- ・「苦・集・滅・道」の内容を正しく理解しているか。
 - ・「苦集」が「苦しみ」の結果・原因であり、「滅道」が涅槃の結果・原因であることを理解し、ここに「苦」からの解放の構造が示されていることを的確に表現できているか。
 - ・釈尊の教説を自らの課題として主体的に受け止めているか。
- 3 中国仏教における鳩摩羅什の意義について、①まず業績をまとめる。②それらがなぜ重要なのか具体的に述べる。（①②と分けて書くこと）

解答のポイント

- ・鳩摩羅什の業績を正しく理解しているか。
- ・重訳經典の翻訳、龍樹の論の翻訳紹介、弟子の育成などが中国の仏教にとってどのような意義を持つかを理解しているか。
- ・それが中国仏教における受容期から展開期への転換点に当たることを理解しているか。

- 参考書：『改訂 大乘の仏道—仏教概要—』『改訂 大乘の仏道—仏教概要— 資料編』

《教化》

●学習のポイント

- ・「教化」の試験は、真宗大谷派教師として最低限必要な教学及び宗門に関する知識の習得状況を確認するとともに、教師を志す受験者自身が本願念仏の教えに生きる者としてどのような姿勢をもって学んでいるかを確認するための試験です。
- ・小論文（事前レポート）の採点は、前述の視点を踏まえ、具体的には、「課題に正対した内容であること」（問われている意味内容を正確に捉えて書く。問われていないことに関する論説や主張などは採点の対象とならない）、「文意が通っていること」、「誤字・脱字がないか」、「字数制限が守られているか」、「自身の経験を通して自らの言葉で述べられているか」などの項目をもって行います。
- ・試験当日は面接を行います。面接を欠席した場合は「教化」について受験辞退となります。

- 参考書：『教団のあゆみ—真宗大谷派教団史—』・『浄土の真宗—真宗概要—』・『宗祖親鸞聖人』
『真宗大谷派宗憲・宗教法人法』・『信の回復』・『改訂 大乘の仏道—仏教概要—』・
『念仏の僧伽を求めて—近代における真宗大谷派の教団と教学の歩み—』（法蔵館）

《声明作法》

●学習のポイント

- ・「声明作法」の試験は筆記試験及び実技試験とし、実技試験は声明作法〔浄土三部経（抄）・正信偈 草四句目下・念仏和讃三淘・御文〕並びに装束作法の習得状況を確認します。なお、装束を正しく着けることも試験の評価項目となるので、装束作法についても習得するとともに、『真宗の儀式—声明作法—』を熟読の上で試験に臨んでください。
- ・筆記・実技それぞれにおいて所定の点数を満たさなければ合格となりませんのでご注意ください。

- 参考書：『真宗の儀式—声明作法—』・『真宗大谷派声明集』（もしくは『大谷声明集（上）』（法蔵館））・『真宗大谷派 御文拝読稽古本』・『昭和新刻 御文（ひらかな版）』（法蔵館）・『大正新刻 御文』（法蔵館）・浄土三部経（抄）（特に経本は指定しないが、試験当日は浄土三部経（抄）折本を持参のこと）

《法規》

●学習のポイント

以下の3つの項目を中心に学びを進め、「真宗大谷派宗憲」「宗教法人「真宗大谷派」規則」「宗教法人法」「宗教法人「」寺規則（真宗大谷派の寺院・教会の宗教法人規則（準則））」を熟読の上試験に臨んでください。なお、筆記試験時にはこれらの法規を収載した『真宗大谷派宗憲・宗教法人法』（東本願寺出版）を貸与します（個人所有のものは持ち込み不可）。

- ①各法規に基づく宗教法人（寺院・教会）の運営について
- ②宗憲改正の意義とその歴史的経緯について
- ③宗憲及び真宗大谷派規則に基づく宗門運営について

- 参考書：『真宗大谷派宗憲・宗教法人法』・『教団のあゆみ—真宗大谷派教団史—』・『念仏の僧伽を求めて—近代における真宗大谷派の教団と教学の歩み—』（法蔵館）・『宗教法人の事務（二訂版）』（文化庁）・『宗教法人運営のガイドブック』（文化庁HPにてデータ公開）

以 上